

2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月9日

上場会社名 株式会社コシダカホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 土井 義人 (TEL) 0570-666-425
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第1四半期の連結業績 (2025年9月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	16,354	8.3	292	△59.9	338	△52.3	668	41.8
2025年8月期第1四半期	15,095	14.5	728	27.1	710	△30.4	471	△40.1
(注) 包括利益 2026年8月期第1四半期	701百万円(△27.4%)		2025年8月期第1四半期 550百万円(△25.9%)					

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第1四半期	8.12	7.52
2025年8月期第1四半期	5.79	5.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第1四半期	72,663	34,873	48.0
2025年8月期	68,588	35,105	51.2

(参考) 自己資本 2026年8月期第1四半期 34,860百万円 2025年8月期 35,096百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年8月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年8月期	—	12.00	—	12.00	24.00
2026年8月期(予想)		13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想 (2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	39,431	16.0	6,139	20.0	6,105	15.2	4,933	54.6	59.86
通期	82,544	19.0	12,966	13.8	12,911	11.3	7,500	42.6	90.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 2社 (社名) KOSHIDAKA MALAYSIA SDN. BHD.
株式会社スタンダード (旧社名 株式会社コシダカＳＰ) 除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期 1Q	83,781,480株	2025年8月期	83,781,480株
② 期末自己株式数	2026年8月期 1Q	1,357,920株	2025年8月期	1,357,908株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年8月期 1Q	82,423,563株	2025年8月期 1Q	81,534,943株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P. 4 「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(企業結合等関係)	12
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、ウクライナ戦争、中東におけるイスラエルとその周辺勢力間の紛争に起因するエネルギー・食料品の価格上昇が継続する中、米トランプ新政権による関税施策なども影響し、物価は概ね上昇傾向を継続しました。国内の物価に影響の大きい為替レートについては日米両金融当局の政策スタンス転換後の政策金利変更幅・スピードを注視しつつ、高市新政権の積極財政を背景とした市場金利の上昇など概ね円安圏での推移となりました。インバウンド観光客が戻り、大手企業先行とはいいうものの給与水準引き上げ傾向を背景に、物価・賃金の安定的上昇につながる可能性も見えてきております。

各セグメントの業績は次の通りであります。

(カラオケ)

主力のカラオケセグメントでは、積極的出店を継続し、近畿・九州などの重点出店エリアに3店、経年店舗と同一商圏内へのリロケーション型出店3店舗を含む14店舗を開設しました。店舗毎に市場状況に応じたきめ細かなプライシングに努め、お客様に合わせたメニュー・料金の提案を行ってまいりましたが、前第1四半期連結累計期間にヒットに恵まれたコラボ関連売上の反動減もあり既存店では前年を下回る売上となりました。これを除いたベースでは増勢を持続しております。利益については、人件費、水道光熱費の上昇は経費管理適正化の継続で抑制したものの損益分岐点のもっとも高い第一四半期において既存店売上高が前年同期を下回る結果となり、その他の固定費増を吸収できず、前年を下回る結果となっております。

また、2025年11月1日付にて連結子会社である株式会社コシダカS P（現 株式会社スタンダード）が株式会社スタンダードよりカラオケ店舗事業等を吸収分割したことに伴い、同社が展開するカラオケ店70店舗がカラオケセグメントに加わっております。

さらに、中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、カラオケ以外のエンターテインメントの提供、コンテンツコラボの積極的展開、採用・教育体制の拡充を進めた他、新規エンターテインメント及び各種業務効率化に向けたDX施策の開発・導入準備を進め、新たなエンターテインメントプラットフォームとしてエンタメボックス「E-bo」の全店舗への導入を進めました。

海外においても、東南アジアでの新規出店を継続し、マレーシアに3店舗の「カラオケまねきねこ」をオープンし、KOSHIDAKA MALAYSIA SDN. BHD. を当第1四半期連結会計期間より新たに連結の範囲に含めております。また、米国、フィリピンでの出店準備を進めております。

当第1四半期連結累計期間末のカラオケセグメントの国内店舗数は、前連結会計年度末比81店舗増加し784店舗、海外店舗数は同3店舗増の4か国28店舗（韓国4店舗、マレーシア18店舗、タイ4店舗、インドネシア2店舗）となりました。

以上の結果、カラオケセグメントの売上高は158億44百万円（前年同期比8.8%増）、セグメント利益は6億38百万円（同38.4%減）となりました。

(不動産管理)

不動産管理セグメントでは、主要物件である「アクエル前橋」、「MANEKI新橋ビル」、「フルーレ花咲ビル」他、既存・新規物件とも安定的に推移いたしました。一方、2025年10月には「厚木ビスタホテル」を売却し、固定資産売却益を当第1四半期連結累計期間の特別利益に計上いたしました。

以上の結果、不動産管理セグメントの売上高は4億56百万円（前年同期比0.5%減）、セグメント利益は70百万円（同131.7%増）となりました。

(その他)

その他セグメントでは、既存飲食店舗5店舗（銀だこハイボール酒場、カフェエクラ）などの収益が堅調に推移、さらに飲食店舗1店舗を新設する一方、温浴施設2施設を閉鎖し、当社グループにおける温浴事業を終了いたしました。

以上の結果、その他セグメントの売上高は1億74百万円（前年同期比16.1%減）、セグメント損失は54百万円（同55百万円利益額減少、赤字化）となりました。

以上により、当第1四半期連結累計期間の当社グループ（当社及び連結子会社）の経営成績は、以下の通りとなりました。

売上高 163億54百万円（前年同期比8.3%増）

営業利益 2億92百万円（前年同期比59.9%減）

経常利益 3億38百万円（前年同期比52.3%減）

親会社株主に帰属する四半期純利益 6億68百万円（前年同期比41.8%増）

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ31億4百万円減少し126億87百万円(同比19.7%減)となりました。これは主に、現金及び預金が35億55百万円減少したことなどによるものです。

有形固定資産は23億63百万円増加し、369億56百万円(同比6.8%増)となりました。これは主に、新規出店に伴い建物及び構築物(純額)が17億31百万円、車両運搬具及び工具器具備品(純額)が12億42百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

無形固定資産は31億43百万円増加し、43億71百万円(同比256.1%増)となりました。これは主に連結子会社である株式会社コシダカS P(現 株式会社スタンダード)が株式会社スタンダードよりカラオケ店舗事業等を吸収分割したことにより、のれんが30億96百万円増加したことなどによるものです。

投資その他の資産は16億71百万円増加し、186億48百万円(同比9.8%増)となりました。これは主に、敷金及び保証金が13億17百万円、繰延税金資産が11億30百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

固定資産の総額は、71億79百万円増加し、599億76百万円(同比13.6%増)となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ40億74百万円増加し、726億63百万円(同比5.9%増)となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ27億23百万円増加し、176億47百万円(同比18.3%増)となりました。これは主に、短期借入金が14億円、未払金が23億23百万円、預り金が7億51百万円、それぞれ増加した一方、未払法人税等が13億45百万円減少したことなどによるものです。

固定負債は15億82百万円増加し、201億42百万円(同比8.5%増)となりました。これは主に、リース債務が8億27百万円、資産除去債務が7億71百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、43億6百万円増加し、377億89百万円(同比12.9%増)となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2億31百万円減少し、348億73百万円(同比0.7%減)となりました。これは主に利益剰余金が配当金の支払があったことなどにより2億67百万円減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ウクライナ戦争、中東における紛争の長期化、米トランプ政権の関税施策など物価については高止まり傾向が続く中、同政策の米国内物価や景気への影響も懸念される他、外交面で不透明感が強い中ではありますが、当社におきましては、かねてから標榜しております、積極的出店の継続と、提供サービスの多様化を通じて、全国津々浦々にPER (Private Entertainment Room) を届けるとする中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」 (EIP : Entertainment Infrastructure Plan) の最終目標を2027年8月期に達成するべく、2026年8月期を本ビジョンの仕上げの時期 (EIP ファイナルステージ) と位置付けて諸施策を一層加速してまいります。

年間最大の商盛期である12月度の業績が概ね計画線で推移したことから、2026年8月期通期の連結業績につきましては、期初の予想を維持し、売上高825億44百万円（前連結会計年度比19.0%増）、営業利益129億66百万円（同13.8%増）、経常利益129億11百万円（同11.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益75億円～94億93百万円（同42.6%～80.5%増）を見込んでおります。予想上限は特別損失が発生しない場合、下限は当期の減損損失同等の特別損失が発生した場合となります。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,487,331	6,931,564
受取手形及び売掛金	1,402,172	1,500,340
商品	158,590	140,364
原材料及び貯蔵品	573,707	712,669
その他	3,172,526	3,404,839
貸倒引当金	△2,574	△2,578
流動資産合計	15,791,753	12,687,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,607,634	26,339,410
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	2,826,738	4,069,604
土地	6,957,299	6,417,071
建設仮勘定	201,332	130,727
有形固定資産合計	34,593,004	36,956,814
無形固定資産		
のれん	62	3,096,622
ソフトウエア	944,485	1,151,663
その他	282,911	122,765
無形固定資産合計	1,227,459	4,371,051
投資その他の資産		
投資有価証券	706,440	753,862
関係会社株式	203,866	202,266
長期貸付金	2,574,932	1,775,662
長期前払費用	603,308	594,427
敷金及び保証金	8,686,056	10,003,762
繰延税金資産	4,202,547	5,332,969
その他	433,911	434,639
貸倒引当金	△434,514	△449,180
投資その他の資産合計	16,976,548	18,648,410
固定資産合計	52,797,011	59,976,275
資産合計	68,588,765	72,663,475

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	603,553	673,218
短期借入金	—	1,400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,336,240	1,237,150
未払金	3,214,723	5,538,539
未払費用	2,109,040	2,121,451
未払法人税等	2,023,058	677,099
賞与引当金	438,284	293,243
預り金	581,627	1,333,204
契約負債	3,739,870	3,782,623
その他	877,535	591,303
流動負債合計	14,923,933	17,647,834
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	3,000,000	3,000,000
長期借入金	7,188,820	6,947,600
退職給付に係る負債	—	363,950
リース債務	—	827,672
繰延税金負債	428,178	177,788
資産除去債務	6,775,082	7,546,756
その他	1,167,194	1,278,240
固定負債合計	18,559,275	20,142,008
負債合計	33,483,209	37,789,843
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,570,257	2,570,257
資本剰余金	3,802,786	3,802,786
利益剰余金	29,407,342	29,140,177
自己株式	△676,177	△676,194
株主資本合計	35,104,209	34,837,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	95,924	131,080
為替換算調整勘定	△103,199	△107,489
その他の包括利益累計額合計	△7,274	23,591
新株予約権	8,622	8,622
非支配株主持分	—	4,390
純資産合計	35,105,556	34,873,631
負債純資産合計	68,588,765	72,663,475

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
売上高	15,095,172	16,354,194
売上原価	12,549,579	13,916,431
売上総利益	2,545,592	2,437,762
販売費及び一般管理費	1,816,973	2,145,323
営業利益	728,618	292,439
営業外収益		
受取利息及び配当金	505	3,620
為替差益	—	79,747
貸倒引当金戻入額	83,809	—
その他	12,246	21,289
営業外収益合計	96,561	104,656
営業外費用		
支払利息	16,041	36,728
為替差損	86,288	—
貸倒引当金繰入額	—	14,022
支払家賃	11,808	—
その他	239	7,379
営業外費用合計	114,377	58,129
経常利益	710,801	338,967
特別利益		
固定資産売却益	—	980,550
特別利益合計	—	980,550
特別損失		
固定資産除却損	11,304	11,432
減損損失	397	2,629
特別損失合計	11,701	14,061
税金等調整前四半期純利益	699,100	1,305,455
法人税、住民税及び事業税	117,188	701,518
法人税等調整額	110,130	△66,545
法人税等合計	227,318	634,972
四半期純利益	471,781	670,482
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1,485
親会社株主に帰属する四半期純利益	471,781	668,997

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	471,781	670,482
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,353	35,156
為替換算調整勘定	74,405	△4,290
その他の包括利益合計	78,759	30,866
四半期包括利益	550,540	701,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	550,540	699,744
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1,604

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

前連結会計年度において非連結子会社であったKOSHIDAKA MALAYSIA SDN. BHD. を、当社グループにおける重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当第1四半期連結会計期間において、株式会社コシダカS Pを新たに設立し、連結の範囲に含めております。また、株式会社コシダカS P（現 株式会社スタンダード）は株式会社スタンダードより2025年11月1日付けで、カラオケ店舗事業等を吸収分割により承継しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	14,564,179	63,134	208,238	14,835,551	—	14,835,551
その他の収益	—	259,620	—	259,620	—	259,620
外部顧客への売上高	14,564,179	322,754	208,238	15,095,172	—	15,095,172
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	135,910	—	135,910	△135,910	—
計	14,564,179	458,664	208,238	15,231,082	△135,910	15,095,172
セグメント利益	1,036,909	30,240	1,427	1,068,578	△339,959	728,618

(注) 1. セグメント利益の調整額△339,959千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,844,551	73,403	174,761	16,092,716	—	16,092,716
その他の収益	—	261,478	—	261,478	—	261,478
外部顧客への売上高	15,844,551	334,881	174,761	16,354,194	—	16,354,194
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	121,646	—	121,646	△121,646	—
計	15,844,551	456,527	174,761	16,475,840	△121,646	16,354,194
セグメント利益又は セグメント損失(△)	638,600	70,075	△54,382	654,293	△361,854	292,439

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△361,854千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「カラオケ」セグメントにおいて、連結子会社である株式会社コシダカS P（現 株式会社スタンダード）が株式会社スタンダードより2025年11月1日付けでカラオケ店舗事業等を吸収分割により承継したことで、当第1四半期連結会計期間においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、3,122,644千円であります。

なお、のれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	1,074,196千円	1,199,141 千円
のれんの償却額	95	26,084

(企業結合等関係)
 (吸收分割による事業承継)

当社及び当社連結子会社である株式会社コシダカＳＰ（以下、「コシダカＳＰ」という。）は、2025年9月12日付の取締役会において、2025年11月1日を効力発生日として、コシダカＳＰが株式会社スタンダード（以下、「スタンダード」という。）のカラオケ店舗等の事業（以下、「承継対象事業」という。）を会社分割（吸收分割）により承継すること（以下、「本件吸收分割」という。）を決議し、コシダカＳＰは、同日付でスタンダードと吸收分割契約を締結いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 吸收分割会社の名称及びその事業の内容

吸收分割会社の名称 株式会社スタンダード

承継する事業の内容 同社が運営するカラオケボックス、複合カフェおよび飲食店（73店舗）

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、エンターテインメントを社会のインフラストラクチャーとして位置づけ、世界中の人々に生活の安寧を提供することを目指している中、その重点施策の一環として、日本全国における「カラオケまねきねこ」店舗網の拡充を推進してまいりました。前連結会計年度においては50店舗を新規出店したことで国内店舗数は703店舗に達し、現在は2027年8月期に売上高1,000億円の達成を目標とする「EIPファイナルステージ」を掲げ、更なる出店を加速させております。今回の吸收分割による事業承継により、新たに「JOYSOUND」のブランドが当社グループに加わることで、これまで当社が創業以来培ってきたノウハウを融合・相互活用すること、顧客特性に基づいた分析や運営体制の効率化、ブランドの棲み分けやサービスの統合など、当社グループ全体で実施する販売施策の効果が一層高まること、また単なる規模拡大にとどまらず事業基盤の強化と成長戦略の加速に直結することで、企業価値の持続的向上を実現できるものと確信しているため、本件吸收分割を行いました。

(3) 企業結合日

2025年11月1日

(4) 企業結合の法的形式

スタンダードを吸收分割会社とし、コシダカＳＰを承継会社とする吸收分割

(5) 本件吸收分割後の状況

本件吸收分割による承継会社の事業内容、資本金、決算期に変更はありませんが、承継会社の名称、所在地及び代表者の役職・氏名については、2025年11月1日付けで以下のとおり変更しております。

(承継会社の変更内容)

商号 株式会社スタンダード

所在地 東京都港区港南二丁目5番12号

代表取締役社長 小林 克章

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

2025年11月1日から2025年11月30日まで

3. 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金 3,500,000千円

取得原価 3,500,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等が発生しますが、現時点では確定しておりません。

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

3,122,644千円

（注）当第1四半期連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理を行っています。

(2) 発生原因

今後の事業展開から期待される将来の超過収益力によるものです。

(3) 債却方法及び償却期間

効果が発現すると見積もられる期間で均等償却しております。

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	777,526千円
固定資産	2,763,852千円
資産合計	3,541,378千円
流動負債	1,181,203千円
固定負債	1,982,819千円
負債合計	3,164,022千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。